

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300099		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「エスポワール」		
所在地	福島県郡山市御前五丁目139番地		
自己評価作成日	平成30年8月14日	評価結果市町村受理日	平成30年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人で研修体制を整えており、各職員のレベルに合わせた研修を受講することで、スキルアップに繋げる機会を設けている。 ・お客様に安全で安心な生活を送って頂ける様にインシデントの分析や事故の対応策の評価、危険予知訓練などを行うことで事故予防・再発防止に努めている。 ・家族交流会や夏祭りなど、ご家族様にも準備から一緒に入って頂いて、ご家族様・お客様と共に楽しめる行事を積極的に行っている。また、地域の方の参加を呼びかけるなど地域交流にも努めている。 ・看取りケアの勉強会なども行い、看取りとは何かを考える機会を設けている。職員とお客様が笑顔で過ごせるよう毎日の生活を、大切に過すことを心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 法人・管理者は職員の人材育成と資質の向上に努め、法人内階層別研修・こやまカレッジ・外部研修に積極的に職員を派遣し質の高いサービスの提供に努めている。 2. 法人・事業所が連携し、利用者と家族の要望や意向を積極的に把握しながらサービスに反映している。毎年「お客様アンケート」や「家族交流会」を実施したり、「ハナミズキ会議」を毎月開催し、意向を把握している。 3. 職員は利用者一人ひとりに寄り添い傾聴しながら利用者を尊重し、利用者本位の支援を行っている。一人ひとりが自分の好きな事(折り紙・塗り絵・読書等)が出来るよう配慮されており、利用者はゆったりと落ち着いて生活している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を決める際は、職員で意見を出し合い決めている。職員や来所されるお客様にも見ていただけるよう掲示し、お客様の想いに寄り添うケアが出来る様努めている。また、地域との交流を深め、地域に根差した施設となるよう心掛けている。	年度初めに職員全員で話し合い見直した理念は、共有フロア等に掲示し職員はじめ関係者に広く周知を図っている。管理者は職員会議や個別面談の際に理念を振り返りながら職員間で意識づけがなされケアに反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域のクリーン作戦に参加したり、小学校の鼓笛パレードの見学に出かけたりしている。日常的には散歩に出かけ畑を見せて頂き挨拶を交わしている。自事業所のイベントを近所へお知らせし参加を呼び掛けている。	町内会に加入し、地域文化祭や鼓笛パレード等を利用者と見学に行き、運営推進委員が事業所の夏祭りに訪れる等交流が行われている。また、毎月、地域の様々なボランティアの訪問を受け、中高校生の職場体験や専門学校生の実習受入も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人事育成の貢献として近くの高校生の傾聴ボランティア、中学生の職場体験、大学生の実習生の受け入れを行っている。認知症の方との関わり方を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、お客様の日常生活がわかるように、写真などを使用し伝えている。行事の助言を頂いたり、避難訓練に参加して頂いてサービスの向上に努めている。	運営推進会議が定期的に開催され、会議では事業所の取り組み内容や現状について報告し、委員の意見(コンセント上の埃があった等)、助言を頂き、定期的にコンセント上の掃除の実施をする等サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に出向く際に、市の担当者へ報告もかねて交流するようになっている。定期的に介護サービス相談員が来所し、サービスについて意見交換をしている。市で行う認知症養成講座へも参加し協力関係を築いている。	日頃から事業所の現状を伝え、各種の報告等を行う中で市の担当者と連携を図り、関係づくりに努めている。また、市介護相談員を受入れ、アドバイスを頂き利用者の支援に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り、委員会活動や勉強会を実施している。身体拘束が引き起こす弊害などについて意識しケアにあたっている。スピーチロックなど言葉による行動制限もないよう職員間で意識し努めている。	事業所として身体拘束をしないことを勉強会・身体拘束委員会・職員会議で周知徹底し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。外出したい利用者には、安全面に配慮し同行しながら対応している。日中、玄関の鍵はかけていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し「不適切なケア」が虐待に繋がることを意識し、不適切なケアがない様に職員同士で声掛けするなどし虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修で介護保険制度について勉強会を行い学ぶ機会を持っている。お客様で成年後見人制度を活用されている方もあり、支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用開始前、介護保険法改定による料金改正時などには重要事項説明書や契約書を用いて説明を十分に行い理解を得ている。入居後も不安やわからないことがあればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人で毎年1回アンケート調査を行い、ご意見やご要望を頂き改善に繋げている。また玄関にご意見箱を設置している。運営に反映させるため、頂いたご意見や改善策を掲示している。また、日々の面会時等になんでも言って頂ける雰囲気づくりを行っている。	利用者の意見や要望は毎月開催するハナミズキ会議や日常の関わりの中からくみ取り、家族からは面会時・法人アンケート・家族交流会・運営推進会議等で出してもらい、それらを法人や事業所で検討し事業運営に反映させている。法人アンケートは、集計結果や改善策を共有フロアに掲示してある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に開催している部門会議や職員会議、昼のミーティングで意見や要望を聞き対応している。必要時には法人の上司に報告している。	管理者は日常的に職員の意見や要望を聞く機会を設け、目標管理の個別面接の際にも職員の意見や希望を把握し、事業所や法人で検討しながら、採り入れている。職員からの提案で業務見直し等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行ったり、職員個々の業務目標を設定し向上心を持って働ける環境づくりを行っている。勤務に関しては毎月職員のお休みの希望を聞き反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での階層別研修や中途採用者研修に参加し、ケアの向上に繋げている。また、毎月の職員会議では勉強会を行っている。実務者研修としてKOYAMACollegeも法人で実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し、管理者は地区の情報交換会に参加している。法人内では研修や行事のお手伝いなどを通して交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査等を通してご本人やご家族様の意見を聞き不安や要望などをカンファレンス等で共有し、安心して過して頂けるようケアプランに反映し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お申し込み時や実態調査時などにご家族様の不安や困りごと、要望などを伺っている。伺ったご意見を入居後のサービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容からどのような支援が必要かケアマネを中心に見極め、支援に繋げている。また相談の内容によっては他の介護サービスや形態などの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様同士と一緒に協力しあって生活レク等行う際、難しい部分を職員がサポートを行っている。お客様から職員へ指導を頂いたり、お客様同士教え合ったり共に支え合い過ごしている。お互いが協働できる様な場面づくりをし支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の広報誌で日常の様子をお伝えしご家族様と情報の共有を行っている。また、誕生日会やお祭り、家族交流会では準備より一緒にご参加頂くなどし、一緒に過ごせる時間を作り、関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と協力しながら、ご家族様へ会いに行ったり、買い物や食事などへの外出が出来る様支援している。友人や知人の面会の際にも、居室でゆっくり過ごせるよう支援している。	利用者の家族・知人・友人等の面会の際は、お茶を出しゆったり話ができるよう配慮している。また、利用者は、近所への散歩、帰宅・外食・家族に会いに行く等、馴染みの関係が継続出来るよう家族の協力を得て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が心地よく、楽しく過ごせるよう席の配慮をしたり、一緒に教え合いながらレク活動ができるよう間に入ってきっかけ作りをするなど、支え合いながら過ごしている。孤立しないよう、挨拶などの声掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり契約終了になった場合でも、時々面会に行ったり、ご家族様のご相談に乗るなどの関係を断ち切らない関わりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様会議を行い意向や要望の聞き取りを行い日常の支援に繋げている。また、日常の会話を通してやご家族様に伺ったりし、本人の意向を探りカンファレンスや申し送りで職員間で共有してケアに繋げている。	毎月のハナミズキ会議での利用者との話し合いや、日常の関わりの中で意向や要望などを把握している。意思表示が難しい方には生活の中での表情・行動・仕草等と家族からの情報を基に利用者本位に思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から今までの生活のご様子やお好きだったことを伺い、職員間で共有し継続できるよう努めている。また、以前利用していた事業所から情報を頂きそれまで行っていたことを現在の生活にいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを使用し生活リズムの把握に努めている。申し送り議事録や生活表に様子を記載し、それを確認することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心に日々の関わりの中でご本人の意見や想いを伺いプランに反映させている。ご家族様にもケアマネが中心となりご意見を伺いカンファレンスで共有し、ケアプラン・モニタリングに活かしている。	利用者・家族の思い、利用者の身体状況のアセスメント結果をもとに、モニタリングを行い、ケアカンファレンスでの職員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。3ヶ月ごとに計画の見直しを行い、状況変化時は随時見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアを実践し、電子カルテや申し送り議事録へ様子や気づきを記載し情報の共有を行っている。カンファレンス時には、職員で意見を出し合い介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の状態に合わせて、ご家族様と協力し病院の受診や送迎等を行っている。外出、外泊等の支援も柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの要請や希望される方には訪問理容や訪問マッサージの方に来て頂く等し、生活に楽しみができるよう支援している。また地域の図書館や公民館などを積極的に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望する医療機関で適切な医療が受けられるように支援している。通院が困難になった場合は、ご家族様と話し合い訪問診療に来て頂いている方もいる。日常生活の様子をご報告するなど医師との連携に努めている。	利用者と家族の希望に沿ったかかりつけ医を継続受診できるよう支援している。通院は家族対応としているが、都合がつかない時は事業所に対応している。通院が困難になって来た利用者はかかりつけ医の往診等で適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は受診記録表に残し職員間で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の状態変化時や気になることがあった際には看護師へ報告し確認して頂いている。また、夜間急変時にも看護師の指示をすぐに仰げる連絡体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関やご家族様と連絡をこまめにとり、情報の共有に努めている。入院中の面会もできる限り行っており、ご家族様の希望があればムンテラに同席させていただく等の連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・看取りに関する指針の説明を行い同意を頂いている。状態の悪化があり受診に行くことが困難な場合はご家族様の希望を伺い訪問診療への切り替えを行い、終末期への体制づくりを行っている。	契約時に重度化や終末期の対応について、意向確認と事業所の指針説明を行い書面で同意を得ている。利用者の状態変化時は、医師・家族・職員が話し合い方針を共有し、書面で家族の意志確認しながら終末期に向けた支援をしており、看取りに関する研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の勉強会を行い、実践力が身につくよう努めている。また、緊急時対応マニュアルもあり、マニュアルに沿って対応できるよう確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て毎月防災訓練を行っている。緊急連絡網の連絡訓練や水害を想定した勉強会なども行っている。毎年秋には、地域の消防署と運営推進会議のメンバーの方と合同の訓練を行い、助言等頂いている。	年間計画により、毎月、火災・地震・水害等を想定（昼・夜間）した訓練を実施している。消防署立ち会いや運営推進委員が参加して防災訓練を行い、助言を頂き、訓練に活かすよう取り組んでいる。非常時備蓄品として、水や食料品、照明機材等を備えている。課題として地域の協力体制の構築を認識している。	地域の方々の協力体制の構築に向けた取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシーや接遇についての勉強会を行い現場のケアに活かしている。また、お客様の気持ちを尊重して、小さなことでも自己決定ができる声かけを心がけている。	職員倫理規程・行動規範・接遇の研修を実施し、言葉づかい、トイレ誘導の声かけ、入室時の了解とノックの励行等、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない支援に取り組んでいる。重要書類は施錠書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様会議の中で、お客様の意見や要望を伺ったり、個別でお話しの中で聞きとりを行っている。入浴の時間や衣類、飲み物を選ぶ際なども自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様それぞれのペースでお好きな場所で過せるよう支援している。起床時間や就寝時間も個人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服をご自分で選んで頂いたり、入浴後に化粧水をつけ、お化粧されたりとおしゃれを楽しんでいる。パーマやカラーも希望に応じてされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食前のテーブル拭き、食材の下準備や盛り付け、片付けなどできることを一緒にを行い、出来上がった食事は一緒にテーブルを囲み楽しく食事をしている。お一人おひとりに苦手な物やお好きなものを伺いメニューに取り入れ喜ばれている。	日頃の言動やハナミズキ会議等で利用者の嗜好を把握し献立に反映している。食材の下処理や盛り付け・片づけ・テーブル拭き等に利用者も参加してもらい、職員も一緒に食事をしながら、楽しい食事となるよう支援している。誕生日にはリクエストメニューを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し、食事量が低下しているお客様にはお好きなものや召し上がられるもの、または栄養補助食品などをおだしている。水分の飲用を好まれない方に関してもお好きなものや食べやすいゼリーにし摂って頂くなど工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを声かけ促し、ご本人様の出来る所は行って頂き、できない部分のお手伝いを行っている。その方の状態に応じて、義歯洗浄剤の使用を介助するなどし口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	8割のお客様がトイレで排泄されている。パットやリハビリパンツの使用を減らせるよう、排泄パターンの把握に努めタイミングを見て介助を行うことで快適に過せるよう支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者の行動や仕草等から排泄のタイミングをつかみ、羞恥心や自尊心に配慮した声かけやトイレ誘導を行っている。殆どの利用者がトイレで排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握した上で、乳製品を摂って頂いたり、運動や腹部マッサージ等もしている。便秘にならないように水分の摂取量にも注意している。下剤だけに頼らず個々にあった運動なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を確認した上で、入浴にお誘い希望の時間や希望の湯温でゆっくりと入浴して頂けるよう配慮している。入浴が難しい方は、清拭を行い気分よく過ごして頂いている。	入浴順番や湯かげん等、利用者の意向にそった支援を行っている。入浴を好まない利用者には、通院等の清潔保持の理由付けの言葉かけ等工夫しながら、入浴して頂けるよう取り組んでいる。季節の菖蒲湯やユズ湯で入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯は活発に活動して頂き、夜間はゆっくり休んで頂いている。生活習慣で日中も休みたいと希望のある方に関しては、居室やソファで休んで頂いている。好きな寝具で休んで頂いたり、季節ごとの寝具の交換を行い気分良く休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がお客様の内服している薬の効果や副作用の把握に努めている。確実に内服して頂けるよう介助を行ったり、状態変化等ないか観察を行っている。また、服薬方法を一覧化しそれに沿って服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割りが持てるよう、お客様それぞれが出来ることや、今までの生活で行ってきたことを把握し、ケアプランに立案している。楽しく行える様実施時には感謝の言葉をお伝えするなどしている。嗜好品に関しても要望を伺いお出ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩にでかけている。また、希望に応じて図書館やドライブなどにも出かけている。日常的に行くことができない場所には、ご家族様の協力を得て外出の機会を設けている。	希望により図書館に本を借りに出かけたり、日常的に事業所周辺の散歩を行っている。季節に応じ紅葉狩りやドライブ、公園等へ出かけている。また、家族の協力を得て帰宅や外泊、食事、買い物等外出の機会が持てるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のご自分でお金の管理が難しい方がほとんどであるが、今後ご希望に沿ってお金を使ったり所持したり出来る様支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際は、相手の都合も考慮しながらやり取りが出来る様支援している。職員がご家族様へ電話した際にもご本人様とかわりお話しして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や昔ながらの行事等が感じられる装飾を行っている。湿度や温度の調整を行い、体調を崩すことなく過ごせるよう注意している。太陽の入り方によっては、眩しい方もいるため、カーテンの調整も注意している。	共用空間には、お月見や団子差し、正月飾り等季節に応じた飾り付けを行っている。また、書道や塗り絵等、利用者の作品を飾り、温度や湿度管理と採光に配慮しながら、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士会話を楽しまれたり、テレビを見たり趣味活動を行ったりとそれぞれが思い思いの場所でお好みに過せるよう配慮している。お部屋でお好きな読書をするなど、お客様の希望に合わせて過していただけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	作成した作品を飾ったり、ご家族様の写真をいつでも見れるよう飾ったりと心地よく過して頂けるよう環境をつくっている。家具の配置などは安全面での配慮も行っている。できる限りご本人様が使用していたなじみの物を持って来て頂けるよう入居時にはお願いしている。	居室には、ベッド・整理タンス・クローゼット等が設置されている。居室に持ち込んだ馴染みの本・テレビ・椅子・テーブル等は、利用者や家族の意向を反映してレイアウトし、家族写真・自作品等を飾り居心地よく過ごせるよう配慮している。利用者の写真入りカレンダーを作成し部屋に飾る工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様それぞれの動線等も考慮した座席にしている。「できること」「わかること」の見極めを行い自立した生活が送れるよう職員間で情報を共有し見守り等のケアを行っている。		